

(2018年1月14日発行)

◆メール情報 (東京都山川節子さん)

1月13日(土)の朝日新聞の夕刊に千田ハルさんが「女性文化賞」を受賞した記事が写真入りで載っていました。希望基金通信では12月にそのことが伝えられていましたね。岩手日報と東京新聞の記事が。

朝日新聞は随分遅い報道ですが、今月末に釜石市内で関係者によるお祝い会が開かれることに関連させてでしょうか。タイトルが「反戦訴え「今の社会も不安」」。ハルさんのこのことばを伝えるのが記者のねらいなのかもしれませんね。

坂口さんが深夜便でハルさんをインタビューして、それを高館さんが唐丹を訪れ、小中学校に知らせに行ったこと、そこで千葉校長先生から聞いたお話、改めて、希望基金通信で読みました。

地元で生まれ育ち、その歴史を教え子たちに伝えようとの千葉先生の思い、そして釜石市の取り組み、今の時代でも希望はまだたくさんあることを感じて、励まされます。<http://eec-2020.com/kenitirou.html>

私は千田さんの深夜便、聞きそこなったので、著書を読もうと思います。 山川 節子



反戦訴え「今の社会も不安」

「女性文化賞」に釜石の千田ハルさん

差別や戦争に反対する女性の活動を支えようと詩人の高良留美子さん(85)が創設した「女性文化賞」の今年度の受賞者が、岩手県釜石市の千田ハルさん(93)に決まった。米英軍の艦砲射撃で壊滅状態となった釜石の記録の継承や平和運動への尽力が評価された。

同賞の主宰者は昨年から、20年間続けてきた高良さんから平塚らいてう研究家の米田佐代子さん(83)に引き継がれ、新体制になって最初の選定。

千田さんは1945年の夏、釜石製鉄所のタイピストをしていたときに米英軍の艦砲射撃に遭い、多くの友人らを亡くした。この体験を踏まえ、戦後は戦争体験や反戦詩歌などを特集した文芸誌「花貌」の編集、発行に半世紀以上携わった。「今の社会にも同様の不安を感じるが、この賞は私を支えて下さる仲間のおかげだけのもので誇りに思う」と話した。

27日に釜石市内で関係者によるお祝い会が開かれる。

(本田雅和)

2018. 1. 13(土) 朝日新聞夕刊

2017年8月9日「NHK ラジオ深夜便」4時台放送

【明日へのことば】

★「砲弾の雨をくぐり抜けて」 千田 ハル

(〒026-0034 岩手県釜石市中妻町1-16-4 TEL: 0193-23-6346)

★聞き手 坂口 憲一郎

— 寄せられた 声、声、声・・・の数々 —

◆右原 君江（東京都江東区）

千田 ハルさんの声は、釜石地方の発音で懐かしく、今は亡き母親のメッセージとして聞きました。50年間の長い期間「花貌」の活動体験から願いを決意し、自由をなによりも愛して実践をしてきた人だと思います。未来の子供たちへ引き継ぐ絵本のプレゼントもすてきな物語でした。

曾孫の平和作文の中に、平和への決意を坂口さんが朗読してくれました。「略多くの人が犠牲になった、なんで戦争人を殺し会う、・・・・憎しみと哀しみを残さない。やさしさ、笑顔で、幸せな世界を作っていきたい。」

ハルさんは、「うれしかった。今までの苦労を美しくまとめてもらった。」おばあちゃんのうれしそうな表情が見えるようで感動しました。

◆笹本 妙子（神奈川県横浜市）

ラジオ深夜便の「聞き逃しサービス」をご紹介いただきありがとうございました。午前4時にはとても起きられないので、助かりました。

釜石の千田ハルさんのお話、とても興味深く拝聴しました。

釜石の艦砲射撃については、母からよく聞いていました。釜石から我が故郷の気仙沼市唐桑までは直線距離でも約50キロありますが、艦砲射撃の地響きがここまで聞こえてきたと言っていました。また、被災者が裸同然で避難してきたそうです。

それから千田さんも少し触れておられましたが、釜石の海岸近くにあった捕虜収容所もこの艦砲射撃で全壊し、2度の被災によって計32人の捕虜が死亡しました。味方の攻撃で死亡するとは本当に皮肉で哀れな話です。この収容所の所長の孫娘が我がPOW研究会のメンバーで、これまたドラマチックな話があり、拙著『連合軍捕虜の墓碑銘』に書いています。いつかまたお目にかかれますよう。どうぞお元気で！ 笹本妙子

◆島津 泰子（岡山県）

93歳の千田さんの静かな語り口に、本当の強さの中の優しさを感じ取ることができました。

戦後2年目に、職場の12~3人の人が集まり、自由に考えを世の中に知って頂く活動をするなんて凄いいことですね。さすが宮澤賢治のふるさとですね。

それも憲法草案を学んだなんて本当に進歩的な方々がいらっしやたんですね。そして後世に戦争のむごさ、愚かさを伝えようと、語り部と、絵本を出版されたのもすばらしいことですよね。私たちも、憲法改正にまっしぐら、戦後の治安維持法さながらの共謀罪法案を、強行採決した安倍政権に対して、いま多喜二に向き合うことで、千田さんに学びたいと、決意を新たにしたいところです。島津泰子

◆堀 泰雄（群馬県前橋市）

ありがとうございます。聞きそびれたので、うれしかったです。

とつとつとした語り口の中に、平和憲法への思いがこもっていたのが印象的でした。安倍首相などは、いまだに押し付け憲法論を振り撒いていますが、戦争が終わって、平和の大切さ、言論の自由の素晴らしさが国民に実感されたことが、ハルさんの口からいきいきと語られていますね。

前橋でも震災のことをちょっと調べた時に、ある老人が「米軍は、後で自分たちが使うことも考えながら爆撃の目標を選んでいった」と言っていました。その人のおうちは、線路のそばにあったので、線路を破壊しないという方針から、震災を生き延びたのでした。

唐丹の支援者（メールのある人）へ転送します。

◆相田 弥生（神奈川県逗子市）

放送お聴きしました。千田様の確かな記憶や説得力のある知的な分析に驚きました。ご高齢とは思えません。長年、信念をもって行動してこられた方ですね。曾孫さんのように千田様の精神をくみとって活動していく人たちが、特に若い人たちの間に広がりますように。

深夜便を入れていただき、ありがとうございました。 相田弥生

◆坂口 憲一郎（岡山県岡山市）

モニターしてくれている友達から釜石艦砲の事は、初めて知った。二人の会話が程よい流れで、二人の話の声も良かったというメールが届きました。

千田さんの思いを曾孫のここみちゃんが汲み取ってくれているように、多くの方に知っていただき、戦争の残酷さを考える、、よすがになればと思います。

◆高舘 千枝子（岩手県紫波郡）

釜石線の景色が見えるようでした。宮沢賢治の郷土愛の詰まった釜石線、釜石から疎開先の遠野に向かう仙人峠越え…も紹介していただきました。

釜石線の旅情に艦砲射撃の歴史を重ね、坂口憲一郎の世界ならではの語り口に様々な事を思い描きながら聴くことが出来ました。遠く長い釜石線をこんなに豊かに紹介して下さい、ありがとうございました。

ハルさんの気持ちも、絵本の紹介と共に伝えており、ハルさんはどんなに助かったことでしょうか…と感じました。

放送は、ハルさんの絵本を坂口さんが朗読しながら紹介しており、ハルさんの気持ちを伝えています。坂口さんの声が、聴く者の心にスーッと溶け込んでおり、お二人の対談に感動しました。ありがとうございました。



【写真】

8月6日、英連邦戦死者墓地（横浜市保土ヶ谷区）で行われた第23回英連邦戦没捕虜追悼礼拝に参加しました。この墓地に、釜石艦砲射撃によって亡くなられた方も眠っておられるそうです。私は、来年も参加します。（高館 千枝子：中央の白の洋服に黒の帽子。左端の男性：坂口 憲一郎さん。）

参考資料：艦砲射撃で消えた「鉄の町」～岩手県・釜石～

<https://wararchive.yahoo.co.jp/airraid/detail/17/>

・千田ハルさんの艦砲射撃の証言を聴くことができます。

私は、釜石に変化が生まれることを願わずにはおられません。

艦砲射撃と幾度となく襲ってくる津波で、町は何度も破壊され、元気を失った釜石ですが、この放送で、釜石の人達は「歴史を伝え継ぐべき人は、我々なのだ」と改めて感じたのでは…。もう一步、外に向かって訴えるために頑張ってください。

7月下旬の唐丹訪問で、唐丹小学校は学習発表会で戦争をテーマにした演劇を発表していましたので、釜石艦砲射撃をテーマにした演劇発表を提案しました。郷土資料館職員の話では、毎年、艦砲射撃に関する演劇発表をしている学校が一枚あるのだそうです。